令和６年度

事業報告書

社会福祉法人　緑伸会

目　　次

令和６年度事業報告
法人本部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

令和６年度事業報告
加賀保育園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6

令和６年度事業報告
保育園加賀のこども・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１

令和６年度事業報告
子育てサロン　ひだまり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７

令和６年度事業報告

社会福祉法人緑伸会
法人本部

１．法人の概要

１）名称及び代表者　社会福祉法人緑伸会（りょくしんかい）
理事長　和田 明人（わだ あきひと）

２）事務所の所在地　東京都板橋区加賀２丁目３番２号

３）事業目的
［この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成されるよう支援することを目的として、社会福祉事業を行う］
（社会福祉法人緑伸会　定款第１条）

４）経営の原則等
［この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。
２　この法人は、地域社会に貢献する取組として、子育て世帯及び地域において日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。］
（社会福祉法人緑伸会　定款第３条）

５）事業内容
A. 社会福祉事業（第二種社会福祉事業）
イ　保育所事業「加賀保育園」
ロ　保育所事業「保育園加賀のこども」

B. 公益事業
イ　子育てサロン「ひだまり」

２．理事・監事・評議員　　※令和７年３月３１日現在

１）理事　　定数６・現員６

NO	氏　名	就任日	職　業　等	備　　考
1	和田　明人	R5.6.24	東京家政大学子ども支援学部 教授	理事長
2	岩井　絹江	R5.6.24	学校法人渡辺学園　常務理事	業務執行理事
3	今留　　忍	R5.6.24	子育てサロンひだまり　代表	法第 44 条第 4 項第 3 号該当
4	藤間理紗子	R5.6.24	加賀保育園　園長	法第 44 条第 4 項第 3 号該当
5	長島　文子	R5.6.24	千葉中央看護専門学校　講師	法第 44 条第 4 項第 1 号該当
6	塚田耕太郎	R5.6.24	加賀まちづくり協議会　名誉会長	法第 44 条第 4 項第 2 号該当

２）監事　　定数２・現員２

NO	氏　名	就任日	職　業　等	備　　考
1	佐野　清克	R5.6.24	元福井工業大学　事務局長	法第 44 条第 5 項第 1 号該当
2	亀岡　保夫	R5.6.24	大光監査法人 会長（公認会計士）	法第 44 条第 5 項第 2 号該当

３）評議員　定数７・現員７

NO	氏　名	就任日	職　業　等	備　　考
1	朝比奈太郎	R3.6.19	社会福祉法人ムクドリ福祉会　理事長	法第 40 条第 1 項各号非該当
2	福嶋　頼秀	R3.6.19	音楽家	法第 40 条第 1 項各号非該当
3	小松原　忍	R6.4.1	元東京家政大学狭山学務部事務部長	法第 40 条第 1 項各号非該当
4	久保田直子	R3.6.19	社会福祉法人にりん草　理事長	法第 40 条第 1 項各号非該当
5	大澤　　力	R3.6.19	東京家政大学付属中高校　統括校長	法第 40 条第 1 項各号非該当
6	井戸　裕子	R3.6.19	元東京家政大学　教員	法第 40 条第 1 項各号非該当
7	土田　壽子	R3.6.19	社会福祉法人リベルテ　理事	法第 40 条第 1 項各号非該当

３．令和６年度評議員会開催状況

１）令和６年度定時評議員会

開催日時　　令和６年６月２３日（日）　１３時３０分～１４時００分

開催場所　　東京家政大学　百周年記念館３階　第３会議室

出 席 者　　出席評議員　※評議員総数７名中６名出席

評議員　大澤　　力　　評議員　福島　頼秀

評議員　久保田直子　　評議員　土田　壽子

評議員　井戸　裕子　　評議員　小松原　忍

欠席評議員　※欠席者１名

評議員　朝比奈太郎

出席監事　※監事総数２名中２名出席（欠席者なし）

監　事　亀岡　保夫　　監　事　佐野　清克

出席理事

理事長　和田　明人　　理　事　岩井　絹江（業務執行理事）

議　　題　□報告事項

（１）令和５年度事業報告について

□決議事項

第１号議案　計算書類（貸借対照表・収支計算書）及び財産目録の承認に関する件

第２号議案　社会福祉充実計画に関する件

２）その他の評議員会（書面表決によるみなし決議等を含む）

特になし

４．令和６年度理事会開催状況

１）第１０期第４回理事会

開催日時　　令和６年５月２５日（土）　１５時００分～１７時３０分

開催場所　　東京都板橋区加賀二丁目３番２号

社会福祉法人緑伸会　加賀保育園　２階ホール

理事総数　　６名（定数６　欠員なし）

出 席 者　　出席理事　※理事総数６名中６名出席

理　事　和田　明人　　理　事　岩井　絹江

理　事　塚田耕太郎　　理　事　今留　　忍

理　事　長島　文子　　理　事　藤間理紗子

欠席理事

な　し

出席監事　※監事総数２名中２名出席

監　事　亀　岡　　保　夫　　監　事　佐　野　　清　克

他出席者

園　長　猪　野　　秀　子（保育園加賀のこども）
事務員　保　坂　　克　二（法人本部）

議　　題　　決議事項
第１号議案　令和５年度事業報告（案）に関する件
第２号議案　令和５年度収支決算（案）に関する件
第３号議案　園規則の一部改正に関する件
第４号議案　就業規則の一部改正に関する件
第５号議案　保育園加賀のこどもの門扉改修工事に関する件
第６号議案　定時評議員会の開催に関する件

２）第１０期第５回理事会

開催日時　　令和６年１１月９日（土）　１５時００分～１７時３０分
開催場所　　東京都板橋区加賀１丁目９−１１
社会福祉法人緑伸会　加賀保育園　２階ホール
理事総数　　６名（定数６　欠員なし）
出 席 者　　出席理事　　※理事総数６名中６名出席
理　事　和田　明人　　理　事　岩井　絹江
理　事　塚田耕太郎　　理　事　今留　　忍
理　事　長島　文子　　理　事　藤間理紗子
欠席理事
な　し
出席監事　　※監事総数２名中１名出席
監　事　亀岡　保夫
欠席監事
監　事　佐野　清克
他出席者
園　長　猪野　秀子（保育園加賀のこども）
事務員　保坂　克二（法人本部）

議　　題　　□報告事項
（１）理事長及び業務執行理事の職務執行状況について
（２）社会福祉法人緑伸会の一般指導監査について
（３）保育園加賀のこどもの一般指導検査について
（４）保育園加賀のこどもの改修工事について
□　決議事項
第１号議案　令和６年度第１次資金収支補正予算（案）に関する件
第２号議案　子育てサロンひだまりの事業に関する件

３）第１０期第６回理事会

開催日時　　令和７年３月２２日（土）　１５時００分～１９時００分
開催場所　　東京都板橋区加賀１丁目９−１１
社会福祉法人緑伸会　加賀保育園　２階ホール
理事総数　　６名（定数６　欠員なし）
出 席 者　　出席理事　　※理事総数６名中６名出席
理　事　和田　明人　　理　事　岩井　絹江
理　事　塚田耕太郎　　理　事　今留　　忍
理　事　長島　文子　　理　事　藤間理紗子
欠席理事
な　し
出席監事　　※監事総数２名中２名出席
監　事　亀岡　保夫
監　事　佐野　清克

欠席監事
　　な　し
他出席者
　　園　長　猪野　秀子（保育園加賀のこども）
　　事務員　保坂　克二（法人本部）

議　題　　□報告事項
（１）理事長及び業務執行理事の職務執行状況について
（２）加賀保育園及び保育園加賀のこどもの福祉サービス第三者評価の結果等について
（３）子育てサロンひだまりの事業所移転について

□　決議事項
第１号議案　令和６年度第２次収支補正予算（案）に関する件
第２号議案　令和７年度事業計画（案）に関する件
第３号議案　令和７年度収支予算（案）に関する件
第４号議案　照明器具 LED 化事業の委託契約に関する件
第５号議案　定款細則の一部改正に関する件
第６号議案　経理規程の一部改正に関する件
第７号議案　就業規則の一部改正に関する件
第８号議案　有期契約職員就業規則の一部改正に関する件
第９号議案　給与規程の一部改正に関する件
第 10 号議案　育児休業等に関する規則の一部改正に関する件
第 11 号議案　介護休業等に関する規則の一部改正に関する件
第 12 号議案　コンピュータ情報システムの運用管理に関する規程の制定に関する件
第 13 号議案　守秘情報管理規程の制定に関する件
第 14 号議案　役員等賠償責任保険契約に関する件
第 15 号議案　保育園長等の選任に関する件
第 16 号議案　令和７年度（前期）役員会等の開催に関する件

５．監査等の実施状況

１）社会福祉法人緑伸会監事による監査
監査実施年月日：令和６年５月１７日（金）
監事氏名：亀岡　保夫、佐野清克
監事監査における指示・指摘事項：特になし

２）指導検査（対象：社会福祉法人　緑伸会）
検査実施年月日：令和６年９月１３日（金）
実施機関：板橋区
当該検査における文書指摘事項：特になし

３）指導検査（対象：保育園加賀のこども）
検査実施年月日：令和６年１１月１日（金）
実施機関：板橋区
当該検査における文書指摘事項：特になし

６．当該年度の主な取り組み

１）法人経営の課題
①経営基盤の強化
ガバナンス（法人統治）の再構築とコンプライアンス（法令遵守）の徹底化を図った。

②財務の規律化と安定化

事業収支及び予実管理等の認識を全役職員間で共有し、財務の規律化と安定化を図った。

③法人保育理念の確立

子育てサロン〈ひだまり〉の事業と保育事業の融合化を図るとともに、加賀保育園及び保育園加賀のこどもの人事・運営面での交流を図り、両園に共通する法人保育理念の確立と保育方針の明瞭化を図った。

④事業の公開・情報発信等

事業の質の向上と利用者のさらなる利便性の向上のために、本法人の事業内容を積極的に公開し、ＨＰ等による情報発信を図った。

また、当該地域の児童家庭福祉のさらなる向上のために、子育てサロン「ひだまり」事業の新規展開を図った。

２）管理運営上の課題

①事業運営の構造化

ＩＣＴの活用等により、各施設の共通領域業務（会計処理、給与計算、人事管理・労務管理等）を法人本部で一元的に管理し、法人事業運営の構造化を図った。

②記録の合理化と保育情報の共有化

ＩＣＴの活用等により、組織内の記録業務の合理化と、保護者等のステークホルダーとの保育情報の共有化を図った。

③災害・感染症等発生時の対応強化

災害発生や感染症発生時の緊急時対応・措置等を想定し、保護者等の関係者及び行政等の関係機関との連絡調整や、訓練・備え・予防対策等の充実を図った。

④共育・共創・協働体制の基盤構築

絵本、造形活動、音楽表現などの子育て文化財を共有しながら、保護者・地域・法人が共育・共創する『加賀の子ども文化』の基盤構築を図った。

以　上

令和６年度事業報告

社会福祉法人緑伸会
加賀保育園

１．基本方針

本法人の保育理念である「子どもの幸せと育ちを何よりも大切に、子ども一人ひとりの生きる力を、心を込めて育てる」と、運営方針である「保護者・保育者・地域が知恵と力を寄せ合って安全・安心の運営を行う」を日々の保育実践を基軸にして組織として具現化していくことに努めた。

また、子どもも保育者も共に喜び、楽しみ、感動し合い、育ちあえるよう、職員はそれぞれ保育技術の研鑽に励み、資質と専門性の向上に努めた。

２．児童の入所状況

在園児数　（利用定員　121 名）

年齢＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
0 歳	3	3	4	4	5	5	7	9	9	9	9	9	76
1 歳	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	192
2 歳	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
3 歳	25	24	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	299
4 歳	26	26	26	26	26	26	26	26	26	25	25	25	309
5 歳	25	25	25	25	25	25	26	26	26	26	26	26	306
合計	113	112	114	114	115	115	118	120	120	119	119	119	1398
要支援児	6	6	6	6	6	6	6	7	7	7	7	7	77
延長保育月利用	1	1	2	2	1	1	1	1	1	2	2	2	17

３．職員の状況

在籍状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
園長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
主任保育士	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
正規保育士	14	14	14	15	14	14	14	14	14	14	14	14
非正規保育士(常勤)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
非常勤保育士	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
栄養士	5	5	5	5	5	5	6	6	6	4	3	4
看護師	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
非常勤職員(無資格)	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7

※栄養士１名　育児休業取得　　令和６年４月～令和７年３月
※栄養士１名　傷病休暇取得　　令和６年10月～令和７年１月

４．保育について

1）乳児クラスは担当制で保育し、愛着関係をしっかり結び、一人ひとりの発達に合ったきめ細やかな援助や、人間関係を広げる土台作りとしての関わりに努めた。
0歳児クラスは今年度も未充足でスタートし、途中入園児への対応もあったが、担当保育者との愛着関係をしっかり築いて生活することができていた。
2）幼児クラスは異年齢の生活の中で、互いを認め合いながら関りを深め、年齢に係わらず興味関心を共有し、遊びが継続することも多く見られた。年長児が翌週の予定を話し合って決めるという新たな取り組みもあり、より主体的に生活することができていた。
要支援児が７名在籍する中、保育士は個別の援助を必要とする場面も多くあったが、子ども同士は認め合い、支え合う自然な関係が築かれており、活動を分けることなく共に育ち合うことができた。
3）豊かな想像力や表現力が培われるよう、外部講師による「おはなしかご」「リトミック」は継続して行った。リズム遊びやハンドサインはしっかりと定着し、どのクラスも日常の中で楽器やリズムに触れて楽しむ姿が見られた。
4）児童虐待や心身に苦痛を受けていないか等を常に意識して視診を行った。
子ども家庭総合支援センター等の関係機関との連携を必要とするケースや、家庭的配慮を必要とするケースもあるので、必要な情報は職員で共有し、個人情報の取扱いには十分気をつけた。

５．食育について

1）幼児クラスは食への興味を育てることを目標に、栄養士が毎月「栄養のはなし」として栄養バランスや季節の食材、マナーを伝えたり、クッキングを行った。年度の後半は、栄養士の育休、病休、退職が重なり、継続的に行うことが難しかったが、クラスによっては子どもから声があがり、子ども達が計画を立てて材料を買いに行き、サンドイッチを作って昼食で食べるという活動を楽しむ等、食への興味は変わらず持つことができた。
また、ランチルームの環境について意見を出し合いながら見直し、子どもが自分でできることも増え、落ち着いて食事ができていた。
2）乳児クラスは担当保育士と毎日食事することで、その子の生活リズムに合った食事や、細かな変化に配慮しながら必要な援助を行い、楽しい食事に心がけた。
また、食材摂取確認表を活用しながら安全かつスムーズな離乳食の提供に努めた。
保護者との連携においては、より具体的な提示の仕方や配慮が必要なケースも増えているので、家庭状況に応じた対応を心がけた
3）今年度は、アレルギーを持つ子どもへの配慮以外に、宗教食への配慮も加わったが、保護者と栄養士・保育士・看護師の連携を密にし、誤食がないように十分配慮した。

６．職員育成と園内外研修

1）日常の保育における課題や疑問は、毎月の乳児・幼児会議で事例を持ち寄りながら検討を行った。乳児会議では、年間を通して「暮らし」を共通のテーマとし、毎回保育の中に「暮らし」を感じる場面の事例を持ち寄った。そして、それが園内研修へと繋がり、全クラスで事例・実践発表を行った。子ども達一人ひとりの暮らしを大切にすることで、より個々に寄り添う関わりが出来たり、保育者に求められる役割への意識の変化も見られた。
2）「おはなしかご」の講師から６名の職員が継続的に学び、実践に繋げられた。
3）外部研修は（別紙）のとおり受講した。

７．防災防犯と安全管理

1）消火訓練・避難訓練は毎月１回、引き渡し訓練は年１回、消防立会いの総合訓練は１回、それぞれ計画通りに実施した。
2）不審者対応訓練を年２回実施した。訓練実施に当たっては、子どもの人数把握が常にできているかも含め予告なしに行い、園内に限らず園外保育中の発生も想定して行った。
3）園内の各場所の安全管理チェックは毎月行い、園内消毒は年２回行った。
4）感染症の予防対策として、玩具や共有部分の消毒をこまめに行った。コロナウイルスやインフルエンザ等感染症の罹患はあったが、園内での感染拡大はなかった。
5）怪我等による受診
- ６月　２歳女児　転倒した際前歯をぶつけ歯科受診。処置なし。
- 10 月　４歳男児　転倒した際右肩を打ち受診。鎖骨に亀裂。
- 11 月　４歳女児　転倒し歯茎を創傷し歯科受診。縫合処置。

８．保護者との関わり

1）運営方針と事業計画を配布し理解を求めた。
また、年 2 回のクラス保護者会と個人面談も行い、多くの保護者に参加していただけた。
2）毎日の活動報告の掲出は欠かさず行った。足を止めて見てくださる保護者や、親子での会話に繋がっている様子も見られた。
3）園での様子や子どもの育ちをより理解していただくため保育参加も実施し、80 家庭以上の参加があった。我が子の様子を知るだけでなく、保育士の関わりを見ることでより安心に繋がったとの感想も多くいただいた。
4）保護者と保育士との交流の場としておこなっている「よるカフェ」は２回開催した。毎回とても喜んでいただき、「よるカフェ」への期待が大きいことを実感できた。
5）法人行事として、保育園加賀のこどもと合同でファミリーコンサートや親子体操教室を開催した。休日に気軽に参加できる企画があるのはありがたいという声もいただいた。
6）外国人の保護者が増え、コミュニケーションの難しさを感じることも多くなっている。翻訳機や写真、動画等を活用しながら相互理解を図り、子どもの様子を伝え、安心してもらえるよう努めた。保護者会や行事には積極的に参加してくださっている。

９．地域との関わり

1）園庭開放や地域の子育て支援活動は継続して開催した。ベビーマッサージやリトミック等、9 回の開催で計 19 組の参加申込みがあった。
2）小中学生の夏のボランティア受入れには、54 名の参加があった。
3）保育士・栄養士・看護師等の養成校の実習については下記のとおり受け入れた。

保育実習生	2 名
看護実習生	35 名
栄養実習生	7 名
中学生職場体験	6 名

4）地域における公益的な取り組みとして、年長児がごみ拾い活動を行い、地域の一員としての自覚を育む機会とした。
5）世代間交流としてシニア絵本読み聞かせ講座修了生による読み聞かせボランティア「りぷりんと」の方が毎月 1 回読み聞かせに来てくださった。読み聞かせを通して良い交流がもてている。
6）近隣小中学校やあいキッズとの連絡会等にも参加し、そこで得た情報を職員で共有し、小学校接続を見据えた保育を考えることができた。

１０．今後の課題

1）職員の経験年数が増す中、慣れた関係の中でも意識を高め合える労働環境を整えていく。
2）第三者評価を受審した。利用者の満足度等、評価の高かったものに関しては今後も維持できるように努め、必要な改善をしながらさらなる質の向上を目指していく。

令和６年度　加賀保育園研修受講一覧

研修参加	研修名	主催	受講状況
保育士１名	「思い」から始める保育環境	子どもの文化学校	全３回
	1．環境の基本を学び動いてみる		オンデマンド
	2．子ども・保育者・保護者の「思い」を確認する		11 月 8 日
	3．環境が変える「私たちの園」		12 月 6 日
保育士１名	２歳児クラスの保育教室	子どもの文化学校	全 10 回
	1．２歳児の心と体、おもしろさ		5 月 14 日
	2．安心できる世界を保障する生活・環境		6 月 4 日
	3．関係を生きる 2 歳児の発達と保育		6 月 25 日
	4．2 歳児の「あそぶ」		7 月 9 日
	5．絵本とふれあいあそび		7 月 30 日
	6．子どもの言葉を聞く記録		9 月 3 日
	7．保護者の話を聞く保育		9 月 24 日
	8．心と体で表現する「うたあそび」		10 月 22 日
	9．2 歳児のごっこあそび		11 月 12 日
	10．思いが膨らむ 2 歳児をイッチョマエの 3 歳児へ		12 月 3 日
保育士１名	子どもの人権を守る保育	板橋区保育運営課	7 月 16 日
保育士１名	保幼小連携研修①	板橋区保育運営課	7 月 24 日
保育士１名	保育現場で活かせるコミュニケーション	板橋区保育運営課	7 月 29 日
保育士１名	保育の質の向上をめざして	板橋区保育運営課	9 月 4 日
保育士１名	保幼小連携研修②	板橋区保育運営課	12 月 16 日
保育士１名	障害の特性の理解と支援のあり方	板橋区保育運営課	1 月 15 日
保育士１名	わらべうた「年齢と発達にあわせた遊び」	東京保育士会	1 月 28 日
看護師１名	保育園・幼稚園の保健勉強会	板橋区・板橋区医師会	3 月 27 日
園内研修	保育のこれまでとこれから	東社協保育部会	オンデマンド

＜キャリアアップ研修＞

研修者氏名	研修科目	主催	受講状況
栄養士１名	食育・アレルギー対応	板橋区保育運営課	全 3 回
保育士１名	幼児教育	学校法人織田学園	全 2 回

以　上

令和６年度事業報告

社会福祉法人緑伸会
保育園加賀のこども

１．基本方針

本法人の保育理念である「子どもの幸せと育ちを何よりも大切に、子ども一人ひとりの生きる力を、心を込めて育てる」と、運営方針である「保護者・保育者・地域が知恵と力を寄せ合って安全・安心の運営を行う」を日々の保育実践を基軸にし具現化していくことに努めた。

また、子どもも保育者も共に喜び、楽しみ、感動し合い、育ちあえるよう、職員はそれぞれ保育技術の研鑽に励み、資質と専門性の向上に努めた。

２．児童の入所状況

在園児数　（定員　105 名）

月 / 年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
0 歳	5	6	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	100
1 歳	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
2 歳	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
3 歳	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
4 歳	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
5 歳	20	20	20	20	20	20	21	21	21	21	21	21	246
合計	97	98	100	101	101	101	102	102	102	102	102	102	1210
要支援児	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
延長保育月利用	2	4	4	4	5	5	6	6	6	6	6	6	60

３．職員の状況

在籍状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
園長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
主任保育士	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
正規保育士	15	15	15	14	14	14	14	14	14	13	13	13
非正規保育士(常勤)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
非常勤保育士	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
栄養士	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
正規看護師	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
非常勤看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
非常勤職員(無資格)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4

※看護師２名　育休

４．保育について

1）乳児クラスは担当制で保育し、家庭と十分に連携を取りながら、個々の生活リズムを整え、生理的・心理的欲求を満たし、一人ひとりが快適で心地よく生活できるようにした。送迎時や連絡帳で日々の様子や成長した姿を丁寧に伝え、一緒に育ちを喜べるようにした。
2）幼児クラスでは、遊びの環境（玩具、場所、時間等）を整え、一人ひとりの主体性を尊重した好きな遊びを思う存分楽しめるようにした。また、異年齢が混在する中で、それぞれの発達に見合う環境も考慮した。造形や体操、音楽、わらべうた等の年間計画を立て、それに基づいて実施、振り返り、再計画を行うようにした。
3）今年度から始まった異年齢保育では、生活の流れ、活動の在り方、子どもの姿に応じた保育内容の計画等、職員間で密に話し合った。気づきや提案を共有しながら、子どもたちがより過ごしやすく、豊かな経験ができる環境になるようにした。
4）異年齢での生活や交流をする時間と、年齢ごとに活動する時間をバランスよく持てるように計画、実施した。異年齢と過ごす時間は遊びや友達同士のかかわり方が豊かになり、年齢ごとに過ごす時間は発達や興味に合わせた活動の展開を楽しめるようにした。
5）毎日のサークルタイムで季節や興味に合わせた絵本の読み聞かせをおこなった。毎週金曜日に絵本の貸し出しをおこない、家庭でも親しみをもてるようにした。

５．食育について

1）栄養会議を月に１度設け、子どもの食べやすい食材や献立、調理方法について意見交換をおこなった。その結果、食材や味付けなどの種類が増えた。
2）乳児クラスでは、喫食状況を見に行き、担当保育者と情報共有を図り、子どもがより食べやすい献立の内容になるよう個別対応をおこなった。
3）幼児クラスでは、食育活動の際に、食材の話を写真やイラストを用いたことで、関心を高める

ことができた。
4）展示食と一緒にその月の旬な食材のパネルを掲示し、保護者にも読んでもらえるようにした。

６．職員育成と園内外研修

1）園内研修で外部講師を招き、運動遊びについて学びを深めた。毎日体操やファミリースポーツデーに向けた活動に学びを活かすようにした。
2）新保庄三先生のオンデマンド研修を全員で受講した。子どもの権利、保育者同士の連携について学び、その後に感じたこと等を共有した。

７．防災防犯と安全管理

1）消火訓練と避難訓練は毎月１回、引き渡し訓練と不審者訓練は年１回実施した。地震、火災、水害などあらゆる状況を想定して計画した。また、活動時、食事中など、活動に応じて避難の対応ができるように実施時間も考慮した。
2）不審者が出現した時の共通の合言葉や対応を話し合い、職員間で共通認識した。
3）安全チェックを毎月おこない、修繕が必要なところは工事をした。
4）感染症対策については、行政から発出される通知に基づき、消毒や換気などの予防に努めた。嘔吐が起きた時には職員間で連携し、感染が拡大しないようにした。
5）衛生管理として、午睡時に玩具や保育室の消毒をおこなった。
6）午睡時の事故防止として、仰向けの徹底、保育室の明るさの調整をおこなった。
7）怪我等による受診
　整形外科３件（肘内障、転倒）
　歯科３件（転倒）
　小児内科３件（創傷）

８．保護者との関わり

1）年度初めの保護者会で異年齢保育になる等の運営方針や１年間の保育の思いを丁寧に伝えた。また、懇談では保護者間で話す時間を多めに設け、交流が深められるようにした。
2）保護者会や個人面談では、子どもの育ちを振り返ったり、今後の育ちを一緒に見据えられたりできるような伝え方をした。
3）希望があった家庭には保育士体験の受け入れをし、それ以外でも子どもの園での様子が見たい保護者には都合のいい時間に来てもらうなどした。
　また、子どもの誕生日会に３名の保護者の出席があった。
4）各おたよりは毎月配布と掲示をし、それ以外にもお知らせや行事の写真をその都度掲示した。また、その日の活動は正面玄関のモニターに毎日掲示した。
5）支援が必要とする家庭には、月に１度の巡回指導を活用し、支援員と面談ができるようにした。家庭、園、療育先、園の支援員などと連携しながら育ちを支えられるようにした。

９．地域との関わり

1）９月には敬老の集いを行い地域（五四自治会）の高齢者の方を招待して、歌を披露したりし

て一緒に遊んだ（９名の参加)。
２）小中学生の夏のボランティア受入れ　２３名の参加があった。
３）高校生の職場体験、実習生の受け入れを積極的におこなった。
　保育実習生　２名
　看護実習生　４２名
　栄養実習生　３名
　高校生職場体験　６名

１０．今後の課題

１）園内、園外研修の年間計画を立て、職員の学びの充実化を図る。
２）第三者評価の職員の回答を受け、法人の保育理念や目標を再確認した上で、園として大事にしたい保育を話し合う。
３）職員一人ひとりが、日常的に子どもに丁寧にかかわり、育ちを支える援助が適切におこなわれるように、発達理解や子ども理解の学びの場を設ける。そのことで、職員自身が保育を楽しめるようにする。
４）園全体の安全チェックをおこない、修繕が必要な箇所は早急に工事をおこなう。
５）食育活動の充実化を図るために、栄養士と保育士がより密に話し合いをしながら計画を立て、よりより活動になるように実施していく。

令和６年度　保育園加賀のこども研修受講一覧

研修参加	研修名	主催	受講状況
保育士１名	板橋区乳幼児期保育・教育ガイドライン	板橋区保育運営課	令和６年６月６日
園　長	保育園運営とリーダーの役割	同上	令和６年６月６日
保育士１名	環境を考える生き物の飼い方	同上	令和６年６月 12 日
保育士１名	乳幼児の健康観察と安全保育	同上	令和６年６月 24 日
保育士１名	子どもの権利を守る保育	同上	令和６年７月 16 日
看護師１名	保育園の病気とケガの対応	同上	令和６年７月 18 日
栄養士１名	食品衛生講習会	同上	同上
保育士１名	保幼小連携研修	同上	令和６年７月 24 日
事務員１名	保育現場で生かせるコミュニケーション	同上	令和６年７月 29 日
保育士１名	発達の気になる子の感覚統合あそび	同上	令和６年８月 23 日
保育士４名	子どもと保育のあした 汐見稔幸・加藤繁美特別対談	子ども文化研究所	令和６年８月 24 日
保育士１名	防災研修	板橋区保育運営課	令和６年 11 月１日
保育士１名	うたうことは	同上	令和６年 11 月６日
保育士１名	食育の推進	同上	令和６年 11 月 15 日
事務員１名	健康体操	同上	令和６年 11 月 19 日
保育士１名	保幼小連携研修 効果的な連携の在り方について	同上	令和６年 12 月 16 日
保育士１名	子どもの育ちを考える	同上	令和７年２月 14 日
栄養士１名	栄養管理講習会	同上	令和６年５月 29 日
保育士４名	運動会実技研修	メイトワールド	令和６年６月７日
全職員	幼児体育指導研修	㈱Ｔ．Ａ．Ｃ コンフィアンサ スポーツクラブ	全３回 令和６年６月 14 日 令和６年９月 12 日 令和６年 10 月４日

＜キャリアアップ研修＞

研修参加	研修名	主催	受講状況
保育士１名	幼児教育	板橋区保育運営課	全５日
保育士１名	保護者支援・子育て支援	社会福祉法人　絆友会	オンデマンド
保育士１名	食育・アレルギー対応	板橋区保育運営課	全５日
保育士１名	障害児保育	同上	同上
保育士１名	食育・アレルギー対応	東京家政学院大学	全３日
保育士１名	乳児保育	板橋区保育運営課	全５日
保育士１名	保護者・子育て支援	一般社団法人 心灯明福祉会	全２日
保育士１名	保護者・子育て支援	同上	同上
保育士１名	保健衛生・安全対策	社会福祉法人　絆友会	オンデマンド
保育士１名	食物アレルギー	一般社団法人　家庭 まち創り政策ラボ	同上
保育士１名	食物アレルギー	一般社団法人　保育 栄養安全衛生協会	同上
保育士１名	障害児保育	一般社団法人　家庭 まち創り政策ラボ	同上

以　上

令和６年度事業報告

社会福祉法人緑伸会
子育てサロンひだまり

目標 1) 区のすくすくカード事業と産後ケア事業による子育て支援に注力し、安定した収入を得る。2) 赤ちゃんを連れて気軽におしゃべり、情報交換できる集いの場を提供する。を達成するために、ひだまり利用者との関わりを大切に、ケアを展開した。

1. 事業の成果

実施目標に対して

1) すくすくカード事業及び通所型産後ケア事業による収入

区の通所型産後ケア事業開始に伴い、契約施設になったことが安定した収入確保につながった。利用者は、月を追って増加し、出産後、育児相談や休息を必要とする母親に実施するケアが収入源となった。すくすくカード事業利用者は減少したが、当事業の協定金は安価で、産後ケア事業利用者負担金にも満たない額により、収入面への影響はなかった。令和６年度の収入は、通所型産後ケア事業委託料により、令和５年度に比して大幅に増大した。

2) 情報交換できる「集いの広場」の提供

加賀保育園２階ホールにて、「集いの広場」(参加定員５組)を開催した。定員枠が満たされることは皆無であったが、イベント終了後、飲み物、お菓子を配り、おしゃべりタイムを設けたことは、アンケート結果から母親同士の情報交換や会話を楽しむ場の提供になったといえる。また、講師や助産師・看護師に意見を求める場にもなった。

2. 事業の実施結果

1) 通所型産後ケア事業　<u>収入 1,925,000 円</u>

令和６年４月～９月

月		４　月	５　月	６　月	７　月	８　月	９　月
利用者数(人)		2	5	4	8	7	5
収入	委託料	40,000	100,000	80,000	160,000	162,000	111,000
	自己負担金	4,000	10,000	8,000	16,000	14,000	10,000
計		44,000	110,000	88,000	176,000	176,000	121,000

注) ８・９月取りやめ料(11,000 円)加算(８月２人、９月１人)

10 月～令和７年３月

月		10 月	11　月	12　月	１　月	２　月	３　月
利用者数(人)		10	9	１２	１０	9	5
収入	委託料	202,000	180,000	240,000	200,000	180,000	100,000
	自己負担金	18,000	18,000	24,000	20,000	18,000	10,000

計	220,000	198,000	264,000	220,000	198,000	110,000

注) 10 月非課税世帯 1 人委託料 22,000 円。自己負担金なし

区が令和 6 年 4 月から開始した通所型産後ケア事業の利用延べ人数は 86 人で、委託料と利用者の自己負担金による収入額は 1,925,000 円であった。通所型産後ケア事業委託業務の受託者となり、利用者の受け入れ、産後ケアの実施により得られた額である。

利用者の受け入れは、利用者から送信された予約フォームの希望日をみて、受け入れ日を決定。その際、第 1 希望日を優先した。既に予約が入っていると、第 2・第 3 希望日になるケースもあったが、少数だった。利用時間帯は、9：00～16：00 が最も多く、10：00～16：00 の場合もあった。ほとんどの利用者は、6 時間乃至 7 時間、授乳、食事、トイレ以外は「休む(眠る)」という状況だった。来所から退所まで、児を預り助産師が世話をした。児が大泣きしても起きてくる利用者は皆無といっても過言ではなく、利用者からは「泣いても助産師さんがみてくれているので、安心して眠っていられる」という感想が聞かれた。授乳指導、育児相談も多く、沐浴は数件実施した。

利用回数

回　数	1	2	3	4	5	6	7
人　数	44	20	12	5	2	2	1

2) すくすくカード事業　　<u>収入 9,000 円</u>

令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月

月	6　月	7　月	9　月	11　月	1　月	3　月
利用者数 （人）	1	1	2	1	2	1
収　入	1,000	1,000	2,000	2,000	2,000	1,000

注) 11 月休息

令和 5 年度の利用者総数は 16 人、収入は 11,000 円であったが、令和 6 年度は半数の 8 人に減少し、収入は 9,000 円となった。利用者の減少は、区の通所型産後ケア事業開始によるものと考える。

すくすくカード事業の利用は、育児相談が主で、休息は、1 人という結果だった。

3) 「集いの広場」　イベント・おしゃべり会

10：00～11：00　加賀保育園 2 階ホール　定員 5 組(母児)

開催日 （曜日）	イベント	講　師	参加(組) ／申込件数
6 月 8 日 （土）	赤ちゃんの熱中症対策	助産師 川杉　久子	0　（中止）
9 月 28 日 （水）	歯科医師による乳児の歯みがき教室	東京家政大学 久篠　奈苗	1（夫も参加） ／ 2

11 月 27 日 （水）	産後のママの“骨盤底筋エクササイズ”	助産師 村田　智子	3　／　5
1 月 29 日 （水）	“手形足形アート”作成	助産師 鈴木　美恵子	2　／　3
2 月 26 日 （水）	“ベビーマッサージ”	東京家政大学 細井　香	3　／　5

申込件数が定員に達している回もあったが、不参加の理由は、都合が悪くなった、児や家族の体調不良等で、当日連絡なく欠席するケースも散見された。参加者からは、イベント・おしゃべりタイムに満足したという感想を得た。

参加費は 500 円、収入は 5,000 円(母親 9 人、父親 1 人計 10 人)であった。

3．事業の評価

すくすくカード事業、通所型産後ケア事業、集いの広場の実施結果の評価は、以下の通りである。

1）成果の指標

令和 6 年度事業計画において、「産後に休養やケアが必要な産婦に対し、休養の機会の提供、心身のケア、育児等の支援を提供した人数と収入」と設定した。

通所型産後ケア事業利用者の受け入れ、利用者のニーズに応じたケアの提供により、利用者数の獲得と収入増は達成に至った。それだけではなく、区が掲げる育児支援、休養の機会を提供するサービスを目的とした通所型産後ケア事業に貢献できたと考える。

すくすくカード事業及び集いの広場の提供の成果は低く、集いの広場については、検討を要する。

2）活動指標

ひだまり利用者数目標 113 人、ひだまり利用後の満足度目標 100%と定めた。

すくすくカード事業、通所型産後ケア事業利用者はトータル 94 人で目標達成には至らなかった。しかし、通所型産後ケア事業利用のキャンセル 16 人、移転により 3 月は 14 日で利用者の受け入れは休止、17 日から 31 日までの休止期間中、予約が 5・6 件入っており、それらを勘案すると、目標には達成していたと見做すことができる。

なお、利用者の満足度は利用者の言動から概ね 100%と評価している。

4．今後に向けて

令和 7 年 4 月 1 日、ひだまりは新たな場所で子育て支援のスタートを切った。「産後の母親がゆっくり体を休める環境」を旨として改修された施設において、利用者のニーズのくみ取りに努め、利用者に寄り添った支援を展開することにより、さらなる利用者数の確保、収入増が見込まれる。

以　上